

# 梨に込める想い

福岡県久留米市  
福岡教育大学附属久留米小学校6年

椎窓 杏美

今年の七月五日にあった九州北部ごう雨では、多くの人や建物がひ害を受けました。学校が休校になったり、家がくずれてしまった所もあります。私の親戚は朝倉市で梨を作っています。私もおじいちゃんが梨作りの手伝いに行く時、一緒について行って、梨山に何度か足を運んだこともあります。

梨作りはとても大変です。一年中休みなく梨を作るために仕事をしなければいけません。十一月の終わりにから十二月、肥料を入れます。そして枝を切って枝ひろいをします。中腰の作業なので、とても腰が痛くなります。さらに、実がなる枝を選定しなければいけません。三月の終わりから四月に、花に花粉をつけます。花粉づけから十五日くらいに、実がなるので、よい実を残して他の実は捨てます。五月から六月に、ふくろがけをします。八月頃、梨狩りを行います。

しかし、今年の九州北部ごう雨により、梨山へ行く道が閉ざされてしまいました。このため、今まで育ててきた梨は見放すことになってしまいました。その中でも何とか梨山の手入れが出来た所の梨を、私はもらって食べました。その梨は大きくて、甘くて、とびつきりおいしい梨でした。

作った人の、早く梨作りをしたいけれど出来ないもどかしさと無念さが梨一つ一つに込められています。梨作りが出来た所の梨は、今まで以上に愛情をかけて育てたからこそ、おいしい梨ができたんだと思います。自然災害は逃れられないものです。この梨山も先祖の代からいろいろな災害を乗り越えて守られてきたと思います。今回ひ害を受けた梨山も、早く復興してほしいです。